

2007年11月20日プレスリリース

Ref.:1090

<http://www.iso.org/iso/pressrelease.htm?refid=Ref1090>

第五回 ISO 社会的責任作業グループへの記録的な参加

社会的責任に関するガイダンスとなる ISO26000 の開発に対する広範な国際的なサポートが行われていることが、2007年11月5-7日にオーストリアのウィーンで開催された ISO 社会的責任作業グループ(以下 WG SR)の第5回総会にて証明された。

- オーストリア規格協会(ON)主催のこの会議は、オーストリア政府及びオーストリア開発庁(ADA)、また、国連グローバルコンパクト及び国連工業開発機関(UNIDO)のサポートを得て開催された。
- この会議には、次の六つのステークホルダーグループ;“産業界”、“政府”、“労働”、“消費者”、“NGO”、“サービス・サポート・研究・その他”を代表する専門家およそ400名という記録的な人数の参加があった。
- 途上国メンバーの数はこの規格開発プロセスの開始以来ほぼ二倍になり、先進国メンバーの数を上回っている。

「ウィーン総会はWG SRの歴史の中で最も多い参加者があった。」と、この活動の関心を高めるために開かれた記者会見にて、ブラジルのISOメンバー(ブラジル規格協会)から選出されたジョージ カジャゼイラ議長は指摘した。「このことは、典型的な工業標準化とは別の、社会に関連した重要な課題について取り組んでいるこの作業の重要性を示している。」

ISO 26000 は、先進国及び途上国の、公的及び私的の両分野の、全ての組織により利用されることが意図されている。ISO 26000 には要求事項ではなくガイダンス(手引き)が含まれる。この規格はマネジメントシステム規格ではなく、認証のための規格として利用されることも無い。

(ウィーン総会の前には)ISO 26000 の第三次作業文書に対して、WG SR の専門家から約7225のコメントが送られた。第4次作業文書(WD4)作成に着手するための作業を可能にするため、多くの重要な議題はこの会議で解決された。この原案は、ウ

ウィーン会合において設置された新しい統合原案タスクフォース (IDTF) で開発されることとなる。なお、IDTF は、各ステークホルダーからバランスのとれた代表が参加することとなっている。

スウェーデンの ISO メンバー (スウェーデン規格協会) から選出されたスタファン ソダーバーク副議長は「WG SR のウィーン会議は、タスクグループ毎に草案した最後の会議として、また、これまでの各タスクグループによって作り上げられた重要な土台に基づき原案を統合することに対して、400 名の専門家が道を開いた最初の会議として記憶に残るだろう。このことは WG SR の開発に関与している様々なステークホルダーグループにおいて、コンセンサスが高まっているという強い現れである。」

規格を開発する作業に加えて、ISO と WG SR は参加する各ステークホルダー代表の増加と SR に対する関心を向上することにも積極的に取り組んでいる。現在 WG メンバーは、71 参加国、オブザーバー 8 カ国、加えて 37 の連携機関に及んでいる。前回の会議から 1 年の間に、ISO 社会的責任基金に集められた寄付金は、ウィーン会議へ 6 名のステークホルダー代表の参加を可能にし、また世界の様々な地域で開催されている複数の地域的又は国家的認識向上ワークショップへの参加を可能にしている。

ウィーン会議への参加者は、オーストリア規格協会 (ON) の Walter Barfuss 理事長、国連工業開発機関のプログラム開発及び技術協力部門の Dmitri Piskounov 部長、オーストリア欧州国際省の Dr. Hans Winkler 州事務局に正式に歓迎された。

WG SR の次回会議は 2008 年 9 月にチリのサンチャゴにてチリの国家標準化機関であるチリ標準化協会 (INN) の主催によって開催される。